

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会
第6回再生普及推進のための連携チーム会合議事要旨

日時：平成29年12月1日（金）13：30～15：30
場所：釧路地方合同庁舎 4階第三会議室

【出席者（敬称略・順不同）】

<個人>

- ・高橋 忠一 再生普及小委員会 委員長
- ・新庄 久志 再生普及小委員会 委員長代理

<関係行政機関>

- | | | |
|------------------------------|---------------------------|------------------------|
| ・国土交通省北海道開発局釧路開発建設部治水課 | 上席治水専門官
治水専門官
開発専門職 | 小澤 徹
稲垣 乃吾
鈴木 美帆 |
| ・環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所 | 自然再生企画官 | 神馬 基夫 |
| ・林野庁北海道森林管理局釧路湿原森林ふれあい推進センター | 所長 | 志村 賢二 |
| ・北海道釧路総合振興局釧路建設管理部事業室治水課 | 主査（河川） | 赤塚 靖 |
| ・北海道釧路総合振興局産業振興部商工労働観光課 | 観光振興係長 | 梨澤 亜弓 |

<再生普及行動計画オフィス>

- | | | |
|-------------------------|-----------|-------|
| ・環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所 | 国立公園課課長補佐 | 桑原 靖則 |
| ・環境省北海道地方環境事務所釧路自然環境事務所 | 釧路湿原自然保護官 | 寺内 聡 |
| ・公益財団法人北海道環境財団 | 事務局次長 | 久保田 学 |
| ・公益財団法人北海道環境財団 | 環境教育推進課 | 安田 智子 |

開会あいさつ（環境省桑原補佐）

配付資料確認の後、再生普及小委員会高橋委員長の司会で進行。

議事 1 環境教育の取組み及び自然再生への参加機会の実施状況について

環境省寺内自然保護官及び各事務局から資料 1-1 に基づき状況を報告した。

（「みんなで調べる復元河川の環境・2017 夏」（7 月 15 日実施）について）

高橋委員長 河道は安定してきているのか？

小澤専門官 復元区間一番下流側の右岸が掘れて左岸に堆積する傾向が見られる。

高橋委員長 6～9 月にこれだけの人が参加し、見るだけではなく自然再生の片鱗にふれ、環境を意識してもらえたと思う。8 月にヒシの実は食べられるか？

神馬企画官 成熟しているものもかなりあり、まだ実が落ちていないので採りやすい時期。塘路の芋団子屋がなくなり、食べられる機会が減った。去年は台風で水没して枯れたが、今年は水かさが少なく水温が高かったので春先の出が早かった。東岸の繁茂が強く、折り重なってキャベツ畑のような状態だった。

新庄委員長代理 1 年間間引いた状況なので、今年は元気だったのだろう。カイツブリがヒシの上に 2 カ所巣を作っていた。

神馬企画官 今年、南側はヒシが多すぎてカヌーが入れなかった。ヒシクイも結構きた。

引き続き、環境省寺内自然保護官より資料 1-2 に基づき参加者の感想等について説明。

高橋委員長 開催曜日によって参加できる層が決まる。小さな子ども連れ、高齢者が多いのもそれに影響されているかもしれない。定年年齢が上がり 60 代でも平日の参加は難しくなる事も考えられる。実施日時は考える必要があるかもしれない。土日は他の文化活動とバッティングする。夜の観察会のリクエストがあるようだが。

事務局代理 他所の事例で、段々畑の再生事業では、水の流れを見るのではなく、夜間に耳を澄ませて音を聞く、というイベントを実施している。このように再生事業で住民を巻き込んだ活動を実施している例は全国的に見ても珍しく、誇っていい。年齢についてだが、行事によって絞り込んでもいいかもしれない。

高橋委員長 まだ参加増の余地はあるか？

志村所長 苗木の植え付けは職員が準備しており、限界がある。刈り払い機等の使用は危険も伴う。

高橋委員長 年間何回か企画する中で、リタイヤ層向け、親子向け等明確にして組むといい。

新庄委員長代理 リタイアした人はやる気がある。自分で機械（草刈り機）を持っているからやる、という人も結構いる。

神馬企画官 ボランティアスタッフの参加を得ているが、20 代～30 代の若い人は前もって休暇願いを出さなければならない。年間行事は事前により広く公表した方が良い。

高橋委員長 学校でも年間計画はかなり前に作るのも、その段階であらかじめ決めておく必要がある。直前では動けない。

神馬企画官 開催 1 ヶ月前ではすでに遅く、もっと早めると 20～30 代も入りやすくなるのでは？

議事 2 WEB サイト等による情報発信について

環境省寺内自然保護官より資料 2-1, 2-2 に基づき説明。

神馬企画官 データセンターはこれまでどこの小委にも属していないので、普及小に図るもの。

高橋委員長 作成してから 10 年以上が経過している。当時は、再生事業が本格的に始まる前で、湿原の基礎的な情報が掲載されている。その後進捗し、当時想定していなかった用途がかなり出てきた。更

新するに当たって、担当小委がない状況だが、普通に考えると湿原の情報を使いやすく社会に広めるのは普及小の役割である。そう考えると責任があり、これを機にどのように使いやすくするか、10余年の間にどれだけ追加すべき情報が得られたか、あらたに必要なデータはないか、どこからでもデータを取り出せるようにすること等々、どうせやるなら今考えたい。例えば資料 p44 で写真については検討中のものが多いが、使いたくても使えない状況。これをもっとオープンにできないか？もっと使いやすい形のデザインとし、一般の人たちも使えるようにしたい。今は協議会メンバーも使っていない。学校教育でも使えるように。

事務局 作成当時は再生事業が学術的にも注目されており研究者からのアクセスも多かった。その後あまり活用されていない。今回の更新に際して誰に対してどのような内容を発信するのか誰がどのような情報を必要としているのかというニーズを把握する必要がある。たとえば自然再生の現状を知ることができるデータベースになっていない。会議の資料や議事録のみ。自然再生の各現場の状況をデータとして入手出来るようにデータセンターの機能として位置付ける必要がある。但しその後のメンテナンスに労力と予算をかけられないので最新データ更新の仕組みを併せて考えなければならない。

神馬企画官 更新業務は毎年請負で出しているが、小委からの要望をとりまとめる機能がなかった。試作版はシンプルなものになるが、今後については普及小で確認しながら考えて行きたい。まずは散在しているデータを整備し、見られないデータを見られるように整理していきたい。

高橋委員長 久保田さんが言うように方針と目的を明確にすれば、技術的には難しくはないだろう。

新庄委員長代理 誰に向かって提供するのかははっきりさせる必要がある。これは協議会のデータベースであり、協議会のデータと釧路湿原のデータを提供することは必要。しかし、湿原の仕組みなどをすべて提供することは必要なのか検討する必要がある。更新すべき内容は誰に対して何を伝えるかをはっきりさせれば決まる。それを決めないと辛い。私たちは協議会のデータベースを提供するということを意識する。

小澤専門官 現在各機関で所有している自然再生協議会関連のサイトを廃止し、データセンターに一元化するイメージか？

事務局 私個人の考えを言わせていただくと、協議会のサイトがポータルで、それぞれの用途に応じてサイトに飛ばすイメージ。その役割分担を整理する。

高橋委員長 そうした役割分担の方針等が明確化されていない。一元化して移行するのは大変で、リンクを貼るのが簡単だろう。

新庄委員長代理 直接提供する生データとリンクデータと2種類ある。分けて考える必要がある。

高橋委員長 協議会内にも様々な意見があるはず。それを把握して最大公約数を見極めることを急ぐ必要がある。今回は担当小委の立場で責任を持って、協議会メンバーにアンケートを行い意見を聞きたいと考えた。アンケート内容の説明を。

環境省寺内自然保護官より資料 2-4 に基づき説明。

新庄委員長代理 質問 2 だが、今のデータセンターの内容を知らせたうえで、必ずデータセンターとして提供してほしい内容は何かを聞くのでは。次にどのような機能を期待するのか、ニーズを問うのでは？

事務局 4つの既存サイト全体に対するニーズも、併せて聞きたいと考えている。

稲垣専門官 現在の協議会のサイトは国交省の仕様があり、意見を聞いても全て対応できるかがわからない。環境省の方でデータセンター更新とあわせて、一元管理など改善できるのであればアンケートする意味はあるが、改善できないことを聞いてもあまり意味が無い。

神馬企画官 最初はWEB 発信全体を聞こうとしていた。

寺内保護官 4つのサイトの役割分担も考える必要があると考えた。今の形を大きく作り替える意図はなく、役割分担を整理したいということ。重複やムダの整理もある。

高橋委員長 一度に聞くのは難しいかもしれない。検討したい。

小澤専門官 自由記入は答える方も大変なので、選択肢を用意したうえでの自由記入欄としては？

高橋委員長 データセンターだけを対象にしては？

事務局 データセンターだけを対象に聞くと、今のデータセンターの収蔵項目以外について検討してもらえない可能性があり、全体を対象に聞いた方がいいと考えた。

寺内保護官 修正案を検討してメールで流すのでご意見いただき、小委員会までに修正する。

その他

小澤専門官 12月12日（火）に湿原再生小委員会を開催する。

寺内保護官 12月15日（金）に再生普及小委員会、1月前半に学校支援WGを開催予定。1月下旬～2月中旬でFWSを開催予定。

閉会